

地区大会でのポリオ根絶  
寄付活動ブースへ参加協力をお願い

ポリオプラス委員会委員長 吉岡義治（佐賀南RC）

ポリオとはどんな病気でしょうか？

ポリオ（急性灰白髄炎）はかつて「小児まひ」とも呼ばれた、ポリオウイルスによって発生する疾病です。

子ども、特に5歳未満の子どもがかかることが多く、麻痺などを起こすことのある病気です。

主に感染した人の便を介してうつります。

うつると、ポリオウイルスが脊椎の灰白髄に入り込み、神経系を侵し筋肉を麻痺させてしまいます。

それによって、手足の筋肉が萎縮して細くなったり、呼吸に関した神経細胞が侵されると、呼吸不能となり死亡することもあります。

治療法はなく、予防接種が唯一の対策です。

# ポリオウイルスの特徴

ポリオウイルスは、人体でしか増殖できません。  
人から人にしかうつらないのです。

つまり、他の動物を介さないのもので、ワクチン投与を確実に続けることで、  
**根絶可能!!**

世界では今から36年前まで、  
年間**35万人**以上の子どもがポリオに  
罹患し、麻痺を発症したり、亡くなっ  
ていました。

日本でも、1960年に患者  
**65000**例に達する大流行がありました。  
た。

- ・ロータリー財団がポリオに対し、最初に補助金を授与したのは1930年です。

国際ロータリー創立75周年の記念活動として

1979年の国際児童年⇒幼児疾病⇒ポリオ根絶！

当時WHO（世界保健機構）は根絶できるとは考えていなかった

- ・1985年にポリオプラス・プログラムを開始  
民間の社会奉仕団体であるRIがイニシアチブをとって  
根絶活動が始まった。

- ・1988年 ユニセフ・WHOとともに地球上からポリオを根絶することをめざす「世界ポリオ根絶推進活動：GPEI」がスタート

（この時点で「撲滅」を「根絶」にかわる）

# 世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）組織

- 国際ロータリー（RI）
- 世界保健機関（WHO）
- 国際児童基金（ユニセフ）
- 米国疾病対策センター（CDC）
- ビル&メリンダ・ゲイツ財団
- 世界ワクチン免疫同盟（GAVI）

今日まで、世界26億人の子どもたちが  
ワクチンを接種し、99.9%まで減らすこ  
とができました。



日本では1980年を最後に発生して  
いません。

世界では1988年の約35万例の報  
告がありました。2024年現在、  
ポリオウイルス（野生株）が残る国は  
世界でもわずかで、あと一歩のところ  
まできています。

# 今、活動を止めてしまおうとどうなるか？



今後10年以内に年間20万件以上の症例数が増える可能性がある。



世界のどこかにウイルスが存在する限り、すでに野生株の存在しない国の子どもたちも再び感染の危機にさらされる。



感染のない国でも、ワクチン接種を続ける必要がある。



## 莫大な資金が必要

日本で例えてみましょう。

1年間で生まれる日本の子どもも約80万人に  
予防時の不活化注射ワクチンを4回接種します。  
ワクチン由来の感染のない、予防ワクチン注射  
は価格も高く、**160億円**余りのワクチン代  
が必要です。

# 国際活動においてなぜお金が必要か？

常在国以外で、大規模な予防接種が必要

- • • 予防接種員
- • • 交通手段（車・ボート・荷車など）
- • • 社会活動家の動員
- • • 研修（関わる人々の）
- • • 広報活動費用（接種のメリットや接種日）
- • • ボランティアの支援
- • • 接種を受けていない子どもを捜す費用

- 「**世界でよいことをしよう**」というモットーで、私たちのロータリー財団はポリオ根絶活動をしています。
- 寄付をすることで、ひとりでは参加できない大きなプロジェクトの一部になれたと感ずることが出来ます。
- 参加することで、大きなプロジェクトの一員になれたと感ずることが出来ます。

みなさん、地区大会当日に、ポリオ根絶募金  
キャンペーンのブースを設置します。

**ご協力をお願いいたします!!**

あなたも参加することで、大きなプロジェクト  
の一員になりましょう!♥